

「サイクル王国やまなし」を目指して

山梨県 県土整備部 道路整備課

1. はじめに

山梨県は県土の中央に甲府盆地が広がり、南部には日本一の高峰富士山、西部には赤石山脈、北部は八ヶ岳、北東部には秩父山塊といった山々に囲まれています。

世界文化遺産の富士山がそびえる富士北麓地域を始め、雄大な自然や高低差のある地形はサイクリストにとって魅力的な地勢ではないでしょうか。

そのような中、多くの観光資源を持つ富士北麓地域において自転車による広域的な周遊観光を促し、個性ある観光地として来訪者の増加による地域活性化を図るため、自転車の利用環境を向上させる「山梨サイクルネット構想（富士北麓地域）（以下、サイクルネット構想という。）」を平成28年3月に策定し取組みを開始しました。

その後令和元年9月に本県の自転車の活用について総合的かつ計画的な推進を図るため「山梨県自転車活用推進計画」を策定し、サイクルツーリズムの推進に寄与するモデルルート上での自転車走行環境整備を推進しています。

本稿では、誰もが安全で快適に自転車を活用することができる自転車利用環境を備えた「サイクル王国やまなし」を目指す山梨県のサイクルツーリズムの現状と取組み、これからについてご紹介します。

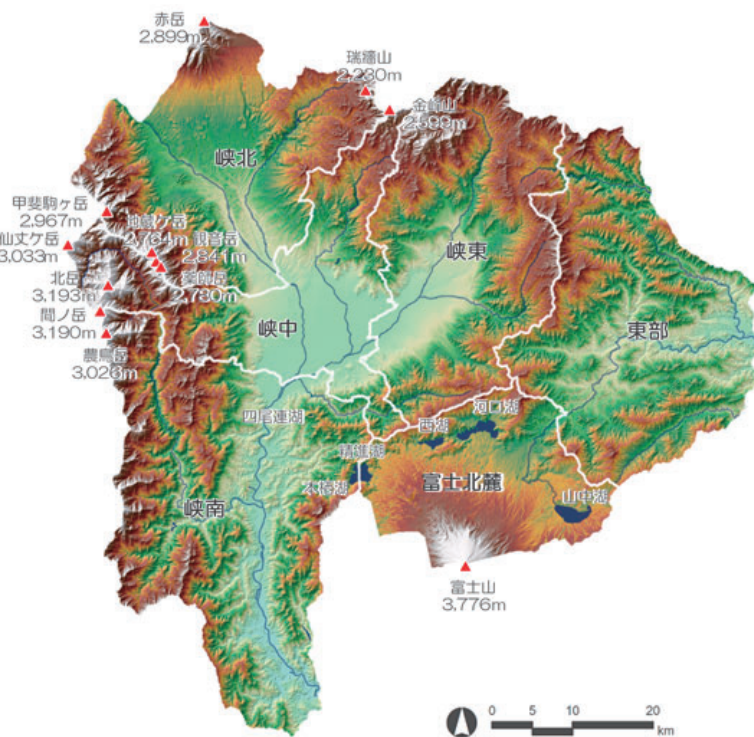


図1. 山梨県の地勢
(出典：山梨県自転車活用推進計画)

2. 「山梨サイクルネット構想（富士北麓地域）」

サイクルネット構想における富士北麓地域は、富士吉田市、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町に身延町を加えた7市町村から構成されており、世界文化遺産の富士山や、その構成資産である富士五湖、忍野八海など多数の観光地には、外国人を含む大勢の観光客が訪れています。

富士北麓地域ではレンタサイクルによる観光周遊が根付いており、より多くの人々に安全で快適に自転車を利用してもらうため、案内誘導や危険箇所の注意喚起などのサイン整備、自転車走行空間整備などのハード整備の充実を目指し、サイクルネット構想に位置付けました。

具体的には、安全性確保のための矢羽根型路面表示や注意喚起の標識、コースを分かりやすく案内する路面表示や案内誘導の標識を設置しています。

富士北麓地域は富士箱根伊豆国立公園内に位置していることから、周囲の景観との調和に配慮し、路面表示は、彩度、明度に配慮したカラーを採用した富士山ブルーと呼称する青色（マンセル値 10B6/4 程度）を、注意喚起法定外標識はダークブラウン（マンセル値 10YR2/1 程度）を用いていることが特徴です。



・ルートを案内するブルーライン



・観光地の案内標識



・トンネルを回避するルートの案内標識



・注意喚起標識

図2. 富士北麓地域の整備状況

また、自転車利用者の受入環境整備にも力を入れており、乗り捨てレンタサイクルシステムの導入や、客室内へ自転車を持ち込めるホテルの充実、富士急行線へのサイクルトレインの導入、地元サイクルガイド付きツアーや山梨県公認のツアーガイドによるサイクリングツアーを実施しています。

更に、県内の国道413号（通称：道志みち）から山中湖周辺の区間は、東京2020オリンピックロードレースコースにもなったことから、レガシーを残していくため多数のサイクルサポートステーションを整備するとともに、ロードバイクのモニュメントも設置しています。

富士北麓地域は風景や観光を満喫したい初心者のサイクリストから、激坂を求める上級者のサイクリストまで、誰もが気軽に楽しめる環境が整っていますので是非一度足を運んでみてください。



・サイクルトレイン
 (出典：「富士山麓電気鉄道株式会社」HP)



・サイクリストを歓迎するホテル
 (出典：「公益社団法人やまなし観光推進機構」HP)

図 3. 自転車利用者の受入れ環境



・山中湖サイクリングツアー

図 4. 山梨県公認のツアーガイドによるサイクリングツアー



・サイクルサポートステーション
 (出典：道志村HP)



・モニュメント

図 5. ロードレースコースの整備状況

3. モデルルート策定と自転車走行環境整備について

令和元年9月に策定した「山梨県自転車活用推進計画」では、県内各地域の強みや特色を活かした魅力のかつ先進的なサイクリング環境を目指すため、9つのモデルルートエリアを設定しました。

サイクルツーリズムの推進に寄与するモデルルートの設定にあたっては、各エリアごとに地域部会を設置し、自転車活用を推進するNPO法人や元自転車ロードレーサー、観光協会役員、関係市町村職員などに委員として参画いただき、よりよいモデルルート設定を目指し議論を重ねています。

令和5年12月現在、6つのエリアでモデルルートの設定が完了しており、令和5年度中に全てのエリアで設定が完了する見込みです。

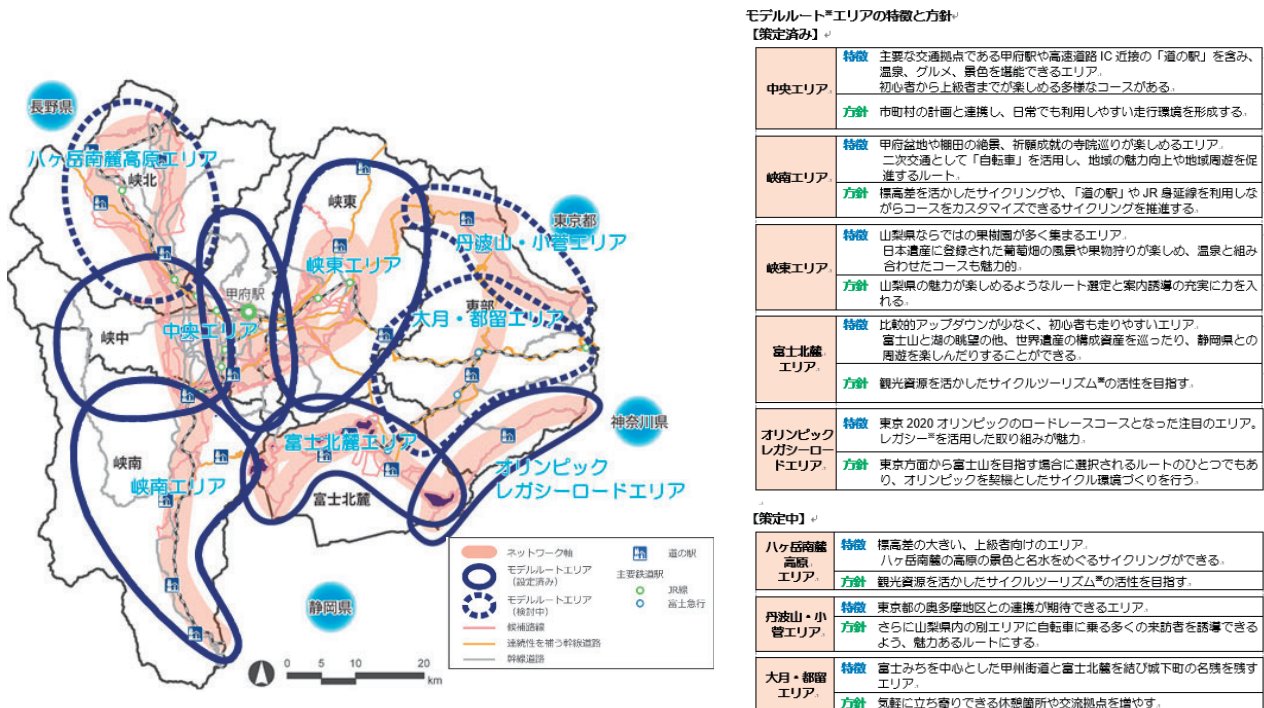


図 6. モデルルートエリア (R5.12月時点) と整備方針

地域部会では、各部会の委員によるモデルルートの試走会を開催し、ルートの魅力や安全性の確認を行うとともに、サイクリスト特有の視点を取り入れたルートを設定しています。

また、矢羽根型路面表示を中心とした自転車走行環境整備を実施するとともに、「サイクル王国やまなし」をPRするサイクルラックプレートの作成・設置、ルートを紹介するサイクリングマップの作成やルートを活用したイベントを開催するなど、自転車を活用した地域振興を目指し日々取り組んでいます。

今後の課題としては、サイクルステーションの充実や案内看板の設置といった自転車利用者の利便性向上策への対応が挙げられます。車社会の本県において、自転車施策全般に対する理解を深め、官民連携してこれらの整備を推進していくことが求められています。



・中央部会



・東部部会

図7. 地域部会の様子



・サイクルラックプレートの設置



・矢羽根型路面表示

図8. モデルルートの整備状況



・プロアスリートを交えた試走会の集合写真



・試走会の様子

図9. モデルルート（案）の試走会



・サイクリングマップ



・サイクルツアーと御朱印集め

図 10. モデルルートを活用した七福神を巡るサイクリングツアーの様子

4. フジイチの取組みについて

平成 19 年に国土交通省の日本風景街道に「ぐるり富士山風景街道」として登録された富士山を周遊する道路では、清掃活動やトレイルなど、地域資源を活かした官民連携の活動が行われていました。また、富士山を周遊するサイクルツーリズムも、ぐるり富士山風景街道の取組みの 1 つとして進められてきました。

これまで山梨県ではサイクルネット構想による整備が、静岡県ではルートの再検討および自転車走行環境整備が行われるなどそれぞれの動きはありましたが、両県連携した取組みはありませんでした。

そこで、令和 5 年 8 月に静岡県と連携した「ぐるり富士山サイクルツーリズム推進協議会」を設立し、富士山周辺地域のサイクルツーリズムを通じた地域の魅力向上、地域振興に向け、県境を跨いだ一体的なサイクリング環境の整備と利用促進を図る取組みをスタートさせました。

第 1 回協議会では、ルート名称を「フジイチ」とすることで合意し、「フジイチ」を象徴するロゴマークを公募することが決定しました。また、現在ナショナルサイクルルート指定を目指したアクションプランも策定中です。令和 5 年 9 月末から 11 月中旬の期間で募集したロゴマークは、短い募集期間であったにも関わらず 350 件を超える応募があり、これからの機運の盛り上がりが見込まれるとされています。フジイチのロゴマークは今年度中に決定、公表する予定です。

将来的にはナショナルサイクルルートとして指定を目指し、官民一丸となってフジイチを盛り上げていく予定です。



・ルートマップ



・協議会の様子



・フジイチ走行の様子

図 11. フジイチの取組み

5. おわりに

近年、環境に優しく、健康増進や交通混雑の緩和等につながる移動手段として自転車の持つメリットに関心が向けられています。

本県では東京 2020 オリンピック自転車競技ロードレース開催を契機にサイクルスポーツへの関心の高まりが感じられ、単なる移動手段としてだけではなく趣味やスポーツなど、自転車利用のニーズがますます広がってきていることから、自転車は交流人口の拡大に有用なツールとなりつつあります。

自転車に乗ってより身近に、より自由に風光明媚な景色を楽しめる新たな観光スタイルの確立と「サイクル王国やまなし」を目指し、サイクルツーリズム活性化事業を更に推進してまいります。

